

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：教育費 項：教育総務費 目：進学奨励費

事業名 奨学金管理システム更新費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

教育委員会 教育財務課 管理経理係 電話番号：058-272-1111(内8564)

E-mail：c17773@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 4,304 千円 (前年度予算額：252 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	252	0	0	0	0	0	0	0	252
要求額	4,304	0	0	0	0	0	0	0	4,304
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

選奨生奨学金、子育て支援奨学金及び高等学校奨学金事業について、奨学生の登録、奨学金の貸与、返還金の請求など、申請から返還完了に至る一連の業務を安定的に管理運用するため、県システム共通基盤を利用した「奨学金管理システム」を平成25年度に導入し、平成26年度から稼働。

平成30年度にシステムの再構築を行い、平成31年度から運用を開始。5年間を保守や障害等不具合対応等の期間として実施している。

現行システムは令和5年度末で契約満了を迎えるため令和5年度に令和6年度からのシステム更新に向けた再構築を行いたい。

(2) 事業内容

現行システム

契約期間

○奨学金管理システムの構築

平成30年4月26日から平成31年3月31日まで

○奨学金管理システムの運用

平成31年4月1日から令和6年3月31日まで

所要経費

- ◎全体事業費 8,021千円
○奨学金管理システムの構築 6,532千円 [H30単年]
○奨学金管理システムの運用 1,048千円
○財務会計システム更新に伴うテスト費用 441千円 [R4単年]

	H30予算	H30契約	H31	R2	R3	R4	R5
導入	8,316	6,532					
運用（債務）			208	210	210	210	210
運用（R4のみ）						441	
合計	8,316	6,532	208	210	210	651	210

次期システム

契約期間

- 奨学金管理システムの構築
令和5年4月から令和6年3月31日まで
○奨学金管理システムの運用
令和6年4月1日から令和11年3月31日まで

所要経費

- ◎全体事業費 13,697千円
○奨学金管理システムの構築 11,552千円 [R5単年]
○奨学金管理システムの運用 2,145千円

	R5予算	R6	R7	R8	R9	R10	計
導入	11,552						11,552
運用（債務）		429	429	429	429	429	2,145
合計	11,552	429	429	429	429	429	13,697

（3）県負担・補助率の考え方

県負担10/10

現行システムは運用費用を教育財務課と私学振興・青少年課の2課で要求。

次期システムは教育財務課と私学振興・青少年課及び地域振興課が利用するためシステム構築費用及びシステム運用費用を3課で要求。

（4）類似事業の有無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
委託料	4,304	システムの構築及び保守・運用の委託を行う。
合計	4,304	

決定額の考え方

4 参考事項

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

現行システムが令和5年度末で満了するため、令和5年度に令和6年度から運用するためのシステム再構築を実施する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標 (R)	達成率
システム再構築の完了	—				100%	

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<p>○システムで管理する情報 貸与者、連帯保証人による個人情報、貸与情報、償還情報等</p> <p>○管理データの事務処理件数の実績 貸与 2,149件 償還 11,737件 合計 13,886件</p> <p>・件数は、私学振興・青少年課と教育財務課の合算。</p>
令和3年度	<p>○システムで管理する情報 貸与者、連帯保証人による個人情報、貸与情報、償還情報等</p> <p>○管理データの事務処理件数の実績 貸与 2,054件 償還 11,683件 合計 13,737件</p> <p>・件数は、私学振興・青少年課と教育財務課の合算。</p>
令和4年度	令和6年度当初予算にて追加

指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない</p>	
(評価) 2	奨学金管理について教育財務課分だけで奨学生5千人以上の台帳をシステム管理しているため、迅速な台帳検索にはシステムの運用は不可欠。
<p>・ 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3 : 期待以上の成果あり 2 : 期待どおりの成果あり 1 : 期待どおりの成果が得られていない 0 : ほとんど成果が得られていない</p>	
(評価) 2	奨学生からの電話問い合わせ時等に迅速な対応が可能。
<p>・ 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) 2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている</p>	
(評価) 1	システム管理化前の紙の台帳管理に比べ、システムでの台帳管理は検索時間を大幅に短縮することができ、奨学金管理業務として非常に効率化できている。

(今後の課題)

<p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 行政手続きオンライン化に伴うオンライン申請を導入するため、奨学金管理システムの再構築時に追加機能を取り入れる必要がある。</p>

(次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 一連の奨学金事務を安定的に管理運用するため、複数年に渡り保守業務の負担が必要となる。</p>
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	—
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	—